

高齢者虐待に関する調査結果（平成 23 年度分）

厚生労働省による高齢者虐待対応状況等の全国調査について、県分の調査結果がまとまりましたので公表します。（※全国データは、後日厚生労働省が発表する予定です。石巻市、気仙沼市、女川町、南三陸町の4市町は、東日本大震災の影響により、平成 22 年度調査結果からは除外されています。）

養介護施設従事者等による高齢者虐待についての対応状況等

（1） 相談・通報件数

県内 35 市町村で受け付けた養介護施設従事者等による高齢者虐待に関する相談・通告件数は 15 件であった。

（表 1）

平成 23 年度	平成 22 年度	増減 (%)	平成 21 年度 (参考)
15	11	4 (36.4%)	9

（2） 相談・通報者

「家族・親族」が 53.3%と最も多く、次いで「当該施設・事業所職員」が 26.6%となっている。

（表 2）

	人	%
家族・親族	8	53.3
当該施設・事業所職員	4	26.6
当該施設・事業所元職員	1	6.7
都道府県から連絡	1	6.7
警察	1	6.7
合 計	15	100.0

（3） 市町村による虐待事実の確認調査結果

（表 3）

	平成 23 年度
虐待を受けたと判断した事例	3
虐待ではないと判断した事例	7
虐待の判断に至らなかった事例	3
明らかに虐待はなく、事実確認調査不要等	2
合 計	15

(4) 虐待の状況

事例1

被虐待高齢者	女性, 80~84歳, 要介護2
虐待の種別類型	身体的虐待(介護職員がソファで利用者と会話中, 突然顔を叩かれたため, 思わず利用者の顔を平手で叩き返した。外傷無し。)
施設・事業所の種別類型	グループホーム(認知症対応型共同生活介護)
虐待を行った従事者の職種	介護職
高齢者虐待に対して取った措置	<ul style="list-style-type: none">・県と市町村による養介護施設等に対する訪問指導, 文書での指導・養介護施設等から改善計画等の提出

事例2

被虐待高齢者	女性, 80~84歳, 要介護3
虐待の種別類型	身体的虐待(介護職員が夜勤をしている深夜帯に, 利用者が頻りに目を覚まして, 居室とトイレを行ったり来たりしたため, なかなか休めなかったことに苛立ち, 利用者の頭部を平手で叩いた。外傷無し。)
施設・事業所の種別類型	地域密着型サービス 小規模多機能型居宅介護
虐待を行った従事者の職種	介護職
高齢者虐待に対して取った措置	<ul style="list-style-type: none">・市町村による養介護施設等に対する訪問指導。・市町村による事業所の取組状況の事後確認及び指導助言

事例3

被虐待高齢者	男性, 75~79歳, 要介護4
虐待の種別類型	身体的虐待(利用者からのトイレ介助を求めるボタンコールに応じて介護職員が居室に行くと, 「まだ(トイレは)いい」と言うことが何度か繰り返され, イライラした介護職員が利用者の頭部を平手で叩いた。外傷無し。)
施設・事業所の種別類型	介護老人福祉施設
虐待を行った従事者の職種	介護職
高齢者虐待に対して取った措置	<ul style="list-style-type: none">・市町村による養介護施設等に対する訪問指導。・市町村による養介護施設等に対する改善計画書提出指導。

養護者による高齢者虐待についての対応状況等

(1) 相談・通報件数

県内 35 市町村で受け付けた養護者による高齢者虐待に関する相談・通報件数は 523 件であった。

(表 4)

平成 23 年度	平成 22 年度	増減 (%)	平成 21 年度 (参考)
523	532	▲9 (▲1.7%)	623

(2) 相談・通報者

「介護支援専門員・介護保険事業所職員」が 31.0%と最も多く、次いで「警察」が 18.9%、「家族・親族」が 14.5%となっている。

(表 5) (複数回答)

	人	%
介護支援専門員・介護保険事業所職員	162	31.0
近隣住民・知人	29	5.5
民生委員	42	8.0
被虐待者本人	57	10.9
家族・親族	76	14.5
虐待者自身	9	1.7
当該市町村行政職員	48	9.2
警察	99	18.9
その他 (医療関係者, 認定調査員等)	45	8.6
不明 (匿名を含む)	2	0.4
合 計	569	—

(注 1) 1 件の事例に対し複数の者から相談・通報があった場合、重複して計上されるため、内訳の合計は相談・通報件数 523 件と一致しない。

(注 2) %は相談通報件数 523 件に対する割合であるため、内訳の合計は 100%にならない。

(3) 市町村による虐待事実の確認調査結果

(表 6)

	平成 23 年度
虐待を受けたと判断した事例	341
虐待ではないと判断した事例	98
虐待の判断に至らなかった事例	73
明らかに虐待はなく, 事実確認調査不要等	11
合 計	523

(4) 虐待の種別・類型

「身体的虐待」が70.4%と最も多く、次いで「心理的虐待」が52.5%、「介護等放棄」が29.9%、「経済的虐待」が22.6%であった。

(表7) (複数回答)

	身体的虐待	介護等放棄	心理的虐待	性的虐待	経済的虐待	合計
件数	240	102	179	1	77	599
%	70.4	29.9	52.5	0.3	22.6	—

(注1) 虐待の種別・類型には重複があるため、内訳の合計は虐待判断事例総数341件と一致しない。

(注2) %は虐待判断事例総数341件に対する割合であるため、内訳の合計は100%にならない。

(5) 被虐待高齢者の状況について

虐待と判断した事例は341件であるが、1件の事例に対し被虐待高齢者が複数人の場合があるため、被虐待高齢者の総数は353人となっている。以下では、総数353人について分類している。

ア 被虐待者の性別及び年齢

性別では、「女性」が80.5%、「男性」が19.5%と「女性」が全体の8割以上を占めた。年齢階級別では「80～84歳」が27.8%と最も多く、次いで「85～89歳」が21.2%であった。

(表8) 性別

	男	女	合計
人	69	284	353
%	19.5	80.5	100.0

(表9) 年齢

	65 ～69歳	70 ～74歳	75 ～79歳	80 ～84歳	85 ～89歳	90歳 以上	不明	合計
人	29	42	64	98	75	44	1	353
%	8.2	11.9	18.1	27.8	21.2	12.5	0.3	100.0

イ 虐待者との関係

被虐待高齢者から見た虐待者の続柄は、「息子」が41.0%と最も多く、次いで「夫」が15.2%、「娘」が14.0%の順であった。

(表10)

	夫	妻	息子	娘	息子の 配偶者 (嫁)	娘の 配偶者 (婿)	兄弟姉 妹	孫	その他	合計
人	61	10	164	56	53	13	6	24	13	400
%	15.2	2.5	41.0	14.0	13.2	3.3	1.5	6.0	3.3	100.0

(注) 1件の事例に対し、虐待者が複数の場合があるため、虐待判断事例総数341件に対し、虐待者総数は400人であった。

(6) 虐待への対応策について

ア 分離の有無

虐待への対応として、「被虐待高齢者の保護と虐待者からの分離を行った事例」32.5%と、約3分の1の事例で分離が行われていた。

(表11)

	件数	%
被虐待高齢者の保護と虐待者からの分離を行った事例	118	32.5
被虐待高齢者と虐待者を分離していない事例	219	60.3
被虐待者が複数で異なる対応（分離と非分離）を行った事例	1	0.3
対応について検討、調整中の事例	15	4.1
その他（被虐待者が入院中、親族間の話し合いにより別居等）	10	2.8
合計	363	100.0

(注) H22年度に相談・通報を受け事実確認済みで、H23年度に対応したものが含まれるため、虐待判断事例総数341件に対し、分離の有無の合計は363件であった。

イ 分離を行った事例の内訳

分離を行った事例における対応としては、「契約による介護保険サービスの利用」が48.7%と最も多く、次いで、娘宅への避難等の「その他」が20.2%、「緊急一時保護」が13.5%の順であった。

(表12)

	件数	%
契約による介護保険サービスの利用	58	48.7
やむを得ない事由等による措置	10	8.4
緊急一時保護	16	13.5
医療機関への一時入院	11	9.2
その他（娘宅への避難、親族宅への転居等）	24	20.2
合計	119	100.0

ウ 分離していない事例の内訳

分離していない事例における対応では、「養護者に対する助言・指導」が63.0%と最も多く、次いで、「既に介護保険サービスを受けているが、ケアプランを見直し」と「見守りのみ」が21.5%であった。

(表13) (複数回答)

	件数	%
養護者に対する助言・指導	138	63.0
養護者が介護負担軽減のための事業に参加	6	2.7
被虐待者が新たに介護保険サービスを利用	43	19.6
既に介護保険サービスを受けているが、ケアプランを見直し	47	21.5
被虐待者が介護保険サービス以外のサービスを利用	26	11.9
その他（虐待者の入院、娘と一緒に住むことになった等）	36	16.4
見守りのみ	47	21.5
合計	343	—

(注) 複数回答のため、合計は100%にならない。